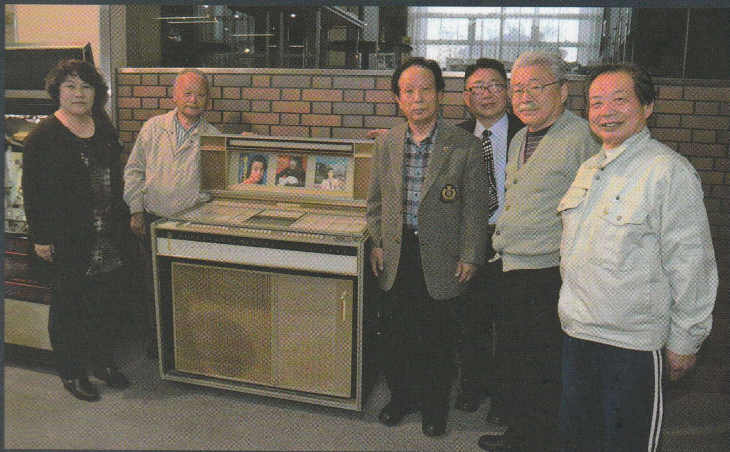




地域を照らした奇跡の輝き、徳島市立木工会館と徳島市地場産業振興協会の記録  
頒布価格◎ 880円(本体800円+税) 発行◎西暦二〇二二年二月七〇〇部



いまだに徳島市の木工会館の耐震工事を行わないとの方針には驚きを通り越して憤りを感じています。徳島市との交渉に当たっていた市地場産業振興協会まで解散せざるを得ない状況になりました。理事長をはじめ役員、職員の方々の気持ちや私と私共の気持ちです。私の店は全国チェーンの飲食店やコンビニなどの出店の影響もありお客様がなくなり常連客がほとんどです。木工会館があったときはイベント出品者や来館者が店を訪れにぎわっていたものです。それだけに木工会館の再開を今か今かと待っていました。このたび振興協会までなくなることになり、私の夢は完全には叶いませんでした。振興協会が木工会館で面白いイベントを開き、県内外から多くの客を福島地区に呼び込んでくれました。木工会館と振興協会は福島市の街の賑わいに欠かせないものでし、残念で悔しい気持ちでいっぱいです。(2022年1月11日付「徳島新聞」読者の手紙欄)

■「木工業は徳島の大切な産業」徳島市、青木稔・71歳「一級建築士」徳島市は、市立木工会館を拠点に地場産業の振興に努力してきました。ところが昨年、この活動の中心組織である市地場産業振興協会が解散しました。徳島市をはじめ県内の木工業は、盛期に比べれば衰退の一途をたどってきたことは認めざるを得ません。中国などから安い製品が入り、時代のニーズの大きな変化の荒波にもまれ現在に至っています。そんな中、県や徳島市などの行政は一体何をしてきたのでしょうか。木工関係の産業は徳島の産業だといえます。これからの時代、何に軸足を置いて街の活性化を図っていくのでしょうか。遠く蜂須賀時代にやってきた村上水軍の船大工たちが、木工業の土台を築いたと聞いています。その歴史と文化の上にあるこの産業を、このまま何もせず朽ちさせてしま、のでしょうか。木工業が輝きを放っていた時代に、官民が一緒になって建てた徳島市福島の木工会館。この建物を利用して、木工業を今の時代に合った産業へと前進させられないでしょうか。ここを拠点とした新しいチャレンジが求められていると思いませんか。(2022年1月9日付「徳島新聞」読者の手紙欄)

流通・販売◎先鋭疾風社(徳島県北島町、地方小出版流通センター取扱)  
編集・発行◎『地域を照らした奇跡の輝き』編さん委員会



黒檀製品



徳島県伝統的特産品  
徳島唐木仏壇

